



9月号

令和2年8月25日

横浜市立 星川 小学校

校長 小西 俊光

TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



ほめ言葉が子どもを成長させる

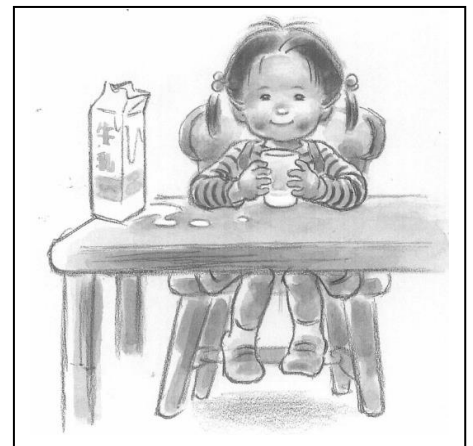
学校長 小西 俊光

「大人の気付き、子どもの成長～絵本は心を育てる特効薬」という演題で、ノンフィクション作家の柳田邦男さんの講演を聴く機会がありました。様々なエピソードをもとに絵本のすばらしさについてお話をしてくださいました。

柳田さんの話の中で特に心に残ったのは、瀧村有子作「ちょっとだけ」という絵本にかかわる話でした。「ちょっとだけ」は、主人公のなっちゃんに妹ができ、お姉さんになったことで感じる切なさ、そしてそれを乗り越えることで成長していく子どもの姿を、母親の深い愛情とともに描かれた絵本です。

この絵本を自分の子どもに読み聞かせていた母親のエピソードの中に次のようなものがありました。

読み聞かせをしていた母親が絵本の中の挿絵(右の挿絵)を見せたときに「すごい！牛乳がコップに少し入っている」とわが子が声を上げました。主人公のなっちゃんが牛乳をこぼしてしまったことにしか目を向けていなかった母親は、なっちゃんが初めて自分で牛乳をコップに注いだことを称賛したわが子の柔軟な見方に感動したそうです。



絵本「ちょっとだけ」の挿絵より
(初めて一人でコップに牛乳を入れたなっちゃん)

私たち大人はどうしても「こうあるべき」という見方・考え方になりがちです。そして、自分がよいと考えたとおりに子どもが動かないと、つい小言を言ってしまいがちです。しかし、このエピソードに出てくる子どもは、初めて自分で牛乳をコップに入れることに挑戦するなっちゃんの立場に立って挿絵を見たのだと思います。大人もこの子のような見方をすることで、子どもの成長を見つけて喜びを感じることができるのではないのでしょうか。また、子どもへの声のかけ方も小言からほめ言葉へと変わり、ほめられた子どもはさらに大きく成長していくと思います。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校生活のスタートが6月からになりました。分散登校、マスクをして受ける授業、全員が黒板の方向を向いて友達と会話をせず食べる給食、ソーシャルディスタンスを保って行う体育の授業…など、これまでとは異なる学校生活を経験する中で、子どもたちが自らの生活を振り返ったり、新しい環境に順応しようと努力したりしている姿を見ることができます。例えば、マスクをしたままだと「おはようございます」の挨拶が相手に聞こえないため、軽く会釈をする子が増えてきています。そうした子どもたちの何気ない仕草から、子どもたちが知恵を働かせて課題を解決しようとしていることが分かります。まさにこうした姿が子どもたちの成長だと思えます。子ども自身はこうしたことが自分の成長だということに気付いていません。子どもは大人からほめられることによって、自分の行動が価値付けられ、自分の成長を自覚できるのだと思います。そして、成長を自覚できたことによって、もっと成長したいという意欲も生まれます。大人のほめ言葉で星の子をさらに輝かせていきましょう。